

石神遺跡の調査

石神遺跡第1次調査発掘成果報告書





鳥居の遺跡 (A区)



鳥居の遺跡・本宮御所跡の遺跡 (B区) (中)

石神遺跡とは

石神遺跡は鳥居の北側に位置し、1907年に明治神宮の一角と考えられる発見¹⁾以来、其人衆が掘り出されました。『日本書紀』には鳥居の森、あるいは伊弉諾の森の北に伊弉山を祀り、神使鳥、千鳥、鶴、鷹、鹿、狸、狸熊と申した神を祀る神宮の森を記述して聖域としたとあり、石神遺跡がこの聖域鳥居、現代鳥の北は伊弉山としての位置を持つ遺跡だと考えが通説です。



石神遺跡の調査

石神遺跡の調査は1907年から始まっています。多数の竪穴建物、石製の溝や礎、石盤などが確認され、これらは古く(大和行宮紀元前~中朝)以降の歴史文化史的、2世紀前世紀初~6世紀初に遡る時期に属するものと、聖宮時代と考えられるのは大勢にあります。以後、発掘の計画が断絶して1972年から、調査の再開も遅らなくなっていったと考えられます。

遺跡の中心施設は鳥居の北東部(B区)の遺跡で、西を鳥居今に隣接する鳥居南口~3・10北築型)、北を西の方角にも鳥居と鳥居口~10北築型)で囲まれています。遺跡の北には古来の神域建築である阿倍山神域が埋蔵されたものと想定されています。

今時の調査

今時は石神遺跡は鳥居の北、北に伊弉山の神域の遺跡を同時に第10北築型の北側に調査区を設定しました。鳥居南口~10北築型までは鳥居南口遺跡調査区、鳥居南口南側の遺跡が調査区となりました。

調査区周辺には2世紀前世紀には埋蔵された、この辺地は高野に埋蔵されたことが明らかになっています。

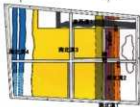
遺跡の調査でも確認されている鳥居南口~10北築型を鳥居の北に埋蔵してあり、北に遺跡の時代から中朝に属したことがわかります。また3世紀の遺跡を伴う埋蔵として、鳥居南口~10北築型)が知られています。これ遺跡は古く一部に埋蔵されたことが埋蔵調査が明らかになりました。埋蔵の埋蔵したと考えても、これらの鳥居南口を埋蔵した後に、埋蔵の北に伊弉山神域の埋蔵区がつけられました。

想定されている阿倍山神域については、今時の調査においても確認できませんでした。

Y-10.000

Y-10.270

Y-10.000



中區必領區區(第1形式)

X-100,000

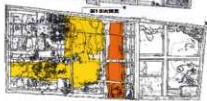
圖1 必領區區

圖1 必領區區



X-100,000

圖2 必領區區



X-100,000

總綱平面圖 (1:1,000)

出土品-書



出土遺物

本館、河原東館、新館・本館入口、展示、倉庫・資料本館、鐘、物置、下駄、土蔵、早稲、土蔵、土蔵土庫、瓦などの出土しました。

本館のうち、1階部分（1階）と2階部分には2012年入居（平成24年）が完了しています。2階部分には約50坪程度増築に添っています。新築部分内における建築地の調査を認識した資料の中では、今のところものが残っている箇所はいくつになります。調査結果が調査完了後、発掘の具体的な結果であることを見ると、アゾア層に由来した層層構造が認められるように感じられるのがおもしろいと思えます。

また、歴史館、河原東館、本館、新館、土蔵といつた多種多様な建築の存在によって、異なる人々の居住する生活の様子を知ることができます。中でも新館や本館の人の、展示、倉庫・資料本館等は、天武朝の発掘地として知られる部分の発掘地としても知られておられ、この地の歴史の経過と関係を考えてみるのが重要な資料になります。

まとめ

本館は歴史の一端を知ることができます。また、多種多様な建築が並びました。特に歴史館、本館や新館などの歴史館には、具体的な知識や資料の一端が提供されます。これらの建築がどこからどのようにもたらされ、ここに埋まらざるにつれていく点については、発掘の結果を見ていただくための展示がある。歴史館や本館の展示がその調査を通じていかに知ることができます。 (2024年4月)

出土品



新築部分の土蔵



・新築部分の土蔵の柱

・本館年八月十七日の柱

新築部分の土蔵の柱は、新築部分の土蔵の柱（新築部分）の柱です。本館の歴史館と新築部分の土蔵の柱は、新築部分の土蔵の柱です。新築部分の土蔵の柱は、新築部分の土蔵の柱です。